

アートギャラリー復活

須磨キャンパスA館耐震工事の関係で、休館しておりましたアートギャラリー（図書館1階）の展示が再開されました。

今回は、神戸女子大学非常勤講師（立体造形「彫置」担当：加藤 可奈衛先生）によるお皿を使ったアート「お皿プロジェクト2011 in 神戸女子大学」が平成23年7月7日（木）～21日（木）の期間に展示されました。

アートギャラリーの床一面に、直径26cm程の白色陶製の平皿が数百枚設置されました。そのお皿1枚ずつを小さなギャラリーにみたくて、学生に参加してもらいお皿の上に粘土や石膏などでできた小さな彫刻作品をおきました。アートギャラリーに、整然として神秘的な空間が広がりました。



お皿プロジェクト2011 in 神戸女子大学

「Smile空間プロジェクト」の一連のボランティア活動

家政学部家政学科上野 勝代教授の授業「住生活文化論」では、毎年、最初の講義で「住居の安全」の大事さを知ってもらうために、阪神・淡路大震災のことを取りあげています。今回は「人と防災未来センター」運営ボランティアの長岡 照子さんに来ていただき、災害時に身を守る方法や被災者にどんな支援が必要かといった体験に基づく貴重なお話をいただきました。当時、仮設住宅に入居したお年寄りの「同じような棟ばかりで自分の部屋が分からない」という声を聞き、かまぼこ板を使った表札が好評であったことから、再び「かまぼこ板表札」を作り東日本大震災の被災地へ届ける計画を実行中であることを話されました。そして、受講している学生全員で長岡さんの指導のもとにかまぼこ板の表札を作りました。

その準備や実習のサポートを上野ゼミの学部生7名と大学院生2名が行いました。かねてから「自分たちも何かできることをしたい」と思っていた学生達は、「Smile空間プロジェクト」を立ち上げ自分たちも「かまぼこ板表札」を作ることを決めました。学内外に呼びかけ集まった合計3,000枚のかまぼこ板に、カラフルな絵を描き、完成した500枚のかまぼこ板表札を持って平成23年8月2日（火）～4日（木）に、メンバー4名（前田 泰子さん、滝井 智子さん、血原 さとみさん、橋本 美奈さんと）上野教授は、長岡さんと共に、被災地（岩手県宮古市、下閉伊郡山田町、陸前高田市）を訪れました。仮設住宅や児童館、老人ホームで「かまぼこ板表札」と神戸女子大学波田学長から預かった「一枚の紙で折ったノラ」、「アクリルたわし」、「うちわ（家政学部管理栄養士養成課程キャリア支援ネットワーク）」も配付し、被災者の方と一緒にかまぼこ板を使って表札を作り、うちわに絵を描くボランティア活動を行いました。

メンバーは現地に行くまで「かまぼこ板表札」が、受け取ってもらえるか不安でしたが、裏面に書いた「神戸から応援しています」などのメッセージが喜ばれ、早速、玄関にとり付けてもらえるなど大好評でした。プロジェクトのメンバーは、現地の凄まじい被害状況と不自由な生活の中で生きていく被災者の姿に、生きるということを真剣に考え、逆に励まされるという胸のあつくなる思いを経験しました。そして、今後もこの活動を続け、集まったかまぼこ板全部の表札作りを行い被災地に送り届ける決意を新たにしました。

この「Smile空間プロジェクト」の活動は、マスコミ各社から報道され、また大和証券福祉財団の災害時ボランティア活動助成を受けました。



被災地でかまぼこ板表札を作る



上野教授とSmile空間プロジェクトのメンバー



名前を入れるだけになったかまぼこ板表札

2011 OSAKA 手づくりフェア「デコリメイク&リメイク チャレンジ展」で 神戸女子短期大学の学生2名が受賞

平成23年9月9日(金)、10日(土)にマイドームおおさかで開催された「2011 OSAKA 手づくりフェア「デコリメイク&リメイク チャレンジ展」(大阪服飾手芸卸協同組合主催)において神戸女子短期大学の学生が以下の成績を取りました。

総合生活学科2年 長谷 香緒里さん ブティック社賞(デコリメイク部門)
総合生活学科2年 西川 優衣さん 織研新聞社賞(リメイク部門)

関西の大学、服飾専門学校など11校から97名の応募がありました。本学からは総合生活学科から4名がそれぞれ2作品ずつ製作し出展しました。

デコリメイクは、既存の服飾品に、ビーズやワッパンなどの服飾資材を付けデコレーションしたもの、リメイクは、既存の服飾品に手を加え形や用途が変わったものです。

古くなって着られなくなった服や小物に工夫を凝らし、オリジナルの作品を作り上げました。リメイクとデコリメイクのおもしろさに目覚めた学生たちは、今後他にもない服や雑貨を作りたいと意気込んでいます。



長谷 香緒里さん



西川 優衣さん

綱引きの綱を東日本大震災で被災した小学校へ寄贈



綱引きの綱の強度を確認

文学部教育学科の佐藤 仁教授、齊山 美津子教授、中山 ふみ江教授が、体育館の倉庫を整理しているときに新品の綱引きの綱を3本発見しました。文部科学省の被災地支援サイトで、綱引きの綱を必要としている学校を募集したところ、岩手県大槌町大槌北小学校からいただいたとの申し出がありました。この時一緒に見つかった巻き取り機も含めて平成23年10月4日(火)に送付しました。

中山教授は新品とはいえ10年以上使用していない綱なので、バスケボール部、バレーボール部の学生を10名ずつに分け、綱をひいてもらい使用に問題がないかどうか確かめました。

大槌北小学校では、東日本大震災で校舎は2階床まで津波の被害を受け、教材備品、体育備品、通信機器、事務用品など全て流出してしまい学校教育活動に支障が出ているそうです。運動会(10月29日開催)の団体戦で綱引きをする計画を立てておられましたが、綱引き用の綱がなく悩んでおられたそうです。

大槌北小学校は、9月20日より仮設校舎が完成し、小学校4校・中学校1校(児童生徒約750名)で同じ敷地内で学習を行っています。今後は、5校で共用の備品として有効利用したいとのこと。

「みんなで力を合わせて綱を引き、学校や街づくりにも力を結集してください」という中山教授のメッセージと共に綱引きの綱は大槌北小学校に届けられ、被災地の小学生に喜んでもらい、綱も忘れられた存在から脚光を浴び喜んでいることでしょう。

ほかに、神戸市立北須磨小学校に綱と巻き取り機、神戸市立高倉台小学校には綱を寄贈しました。



大槌北小学校へ寄贈した綱引きの綱と巻き取り機



感謝状



記念の盾

「ふれあい給食」サービスグループに感謝状が授与される

「神戸女子大学プロジェクトコスモス」は、平成23年9月13日(火)に神戸文化ホールで開催された平成23年度「神戸市社会福祉大会」において、「神戸市社会福祉協議会理事長感謝状」と記念の盾を授与されました。

このプロジェクトは、近隣の高倉台地域にお住まいの一人暮らしの高齢者を対象に給食サービスをするものです。学生や教職員との交流を図り、引きこもり予防や健康づくりに貢献することを目的に、家政学部管理栄養士養成課程の駿河 明子教授(平成21年3月退職)が、当時の家政学部長瀬口 正晴教授らの協力のもと平成17年から始められました。

ふれあい給食は月1回、年10回須磨キャンパスの学生食堂2階の特別食堂において、NPO法人「舞たから台」のメンバー、給食の配膳などをボランティア学生、学生課、施設課、馬測商事の協力で開催され、毎回30数名の参加があります。

食事だけでなく、コーラス部、管楽器部、手話部、デンマーク体操部などの学生も参加し、日頃の活動の紹介をしながら、参加者と共に楽しい時間をすごしています。

神戸女子短期大学V-netの活動

第5回「こうべ朝食メニューコンテスト」第2次審査 神戸女子短期大学のV-netがボランティアスタッフとして参加

平成23年8月27日(土)神戸女子短期大学ポートアイランドキャンパスで、第5回「こうべ朝食メニューコンテスト」が行われました。

このイベントはこうべ朝食メニューコンテストプロジェクト会議と神戸市が主催し、神戸市内の全小学生を対象に手軽でおいしい「家族に作ってあげたい朝食」メニューを募集しました。1,354件の応募の中から書類選考で選ばれた13名と調理協力者(小学生以下の友人・きょうだい)12名の合計25名が、調理・試食による2次審査に進み、自慢の腕を振るいました。

神戸女子短期大学の食物栄養学科の「V-net(注1)」に所属する学生15名は、家とは違う調理室や調理器具でも子どもたちが実力を発揮できるように、事前の準備、調理中のフォローを行いました。また審査の準備や後片付けに至るまでコンテストに欠かせない役割を担いました。



調理中の子どもを見守りフォローする学生

子どもたちが懸命に調理する姿を見て、学生たちも精一杯のフォローをしました。帰り際には「お姉さんありがとう」と言われるなど、すっかり子どもたちと仲良くなっていました。

8月の最後の土曜日に行われたコンテストに参加した子どもたちとこのイベントを支えた「V-net」の学生たちにとって、朝食の重要性について考える機会と素敵な夏の思い出になりました。

この朝食メニューコンテストの審査委員長は神戸女子短期大学の長瀬 荘一 学長で、「こうべ食育推進懇話会」の会長です。



開会の挨拶をする長瀬学長(審査委員長)

神戸女子大学V-net+の活動

東日本復興を願って「神戸ふれあいフェスティバル」で創作した いも煮カレーを販売

平成23年10月15日(土)、16日(日)「神戸ふれあいフェスティバル」がメリケンパーク(神戸市中央区波止場町)で開催されました。このイベントは全県のイベントと地域イベントが連携することによって「ひょうご」の魅力を発信するために平成元年から始まりました。この数年は手づかり感溢れる内容になっています。今年は東日本大震災からの復興を願っての開催となりました。

神戸女子大学の家政学部管理栄養士養成課程の学生からなるボランティアグループ「V-net+(注2)」17名は、野菜ソムリエ高橋 昇氏の指導のもとに東北の食材を使って創作した「いも煮カレー」「りんごササ木風揚げ菓子」を販売しました。出店名は「いも煮会@KOBÉ」です。

このメニューは東北の伝統的な家庭料理「芋煮」と外国との交流が盛んな国際都市神戸の食文化とのコラボレーションを念頭におき生まれたものです。



販売したいも煮カレー

このイベントのために「V-net+」の学生は夏休みに高橋氏の研修を2回うけ、調味料や香辛料の割合にも工夫をこらしました。調理には慣れているメンバーですが、400食分のいも煮カレーと揚げ菓子の食材の準備と調理は大変だったようです。

前日は大雨で開催が危ぶまれて当日は曇り空でしたが、多くの来場者でフェスティバルは賑わい、「V-net+」のいも煮カレーに「おいしいですね」「芋がカレーに合うですね」といった言葉をいただきました。この売り上げは東北の復興を応援する義援金になりました。



神戸ふれあいフェスティバル)で活躍したV-net+のメンバー

(注1) V-netとは・・・阪神・淡路大震災をきっかけに発足した栄養士・管理栄養士養成施設で構成されたボランティアネットワーク。神戸女子短期大学では、「V-net」という学内のクラブとしても活動している。

(注2) V-net+とは・・・V-netのメンバーのうち、神戸女子大学の学生のみで構成した神戸女子大学の同好会の1つとして活動するボランティアグループ。